

総評

模試の復習をするときには、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を確認したうえで、再度問題に取り組みよう。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) (b)「常調」「情長」などと書き誤るもの、(c)「隔」の字を書き誤るものが散見された。いずれも基本的な語なので、しっかりと復習しておこう。

(二)〔採点基準〕

〃b 何が正しいかが a 統計の取りやすい事象の数値だけで b 判断され、
c 数値になり得ない異例のものや数値を度外視できる瞬間のなかの、d 生にとつて重要なものが無視されてしまうから。〃を押さえて — 12点
※ a部3点・b部3点・c部3点・d部3点

〔統計の取りやすい事象だけを選択対象としてはならない〕という要素を中心にまとめている答案が多かった。理由説明であることを踏まえると、なぜ〔統計の取りやすい事象の数値〕だけを対象にしてはならないか、c部・d部を説明に含めることが重要となる。字数設定・設問条件を踏まえて、解答に含めるべき要素を整理しよう。

(三) 誤答は(e)が目立った。正解選択肢と比較すると、「暴力に匹敵する知」という表現のニュアンスを表し切れておらず不適切となる。

(四)〔採点基準〕

〃a 迷惑のかかる行為に対し b どこまで個人の自由が許されるか、c 何が法律や道徳で規制されてよいかについての d 各人の理性的な判断による基準か

ら、e 健康に害があるかどうかについての f 医師の裁定による基準へと変化した。〃を押さえて — 15点

※ a部3点・b部2点・c部2点・d部3点・e部2点・f部3点

〔各人の理性による判断→医師による判断〕という「基準の変化」の大枠は押さえられている答案が多かったが、各要素をすべて押さえられているものは少なかった。傍線部説明としては、「正義の基準」の内容について、何に對しどのような判断をする際の基準であるか、a～c部の要素も漏れなく説明する必要がある。

(五) 誤答は分散したが、Ⅲ・Ⅳがやや目立った。直前・直後の内容との結びつきを確認しておこう。

(六) 誤答は(w)(r)が目立った。「適切でないもの」を選ぶことを踏まえ、選択肢を一つずつ丁寧に本文と突き合わせて検討しよう。

二 小説

(一) (a)「自明の理」は、比較的よくできていた。

(b) 誤答として、(r)「自身のした悪事を告白すること」を選んだ人がいた。「釈」は〔解き明かす〕の意。ここは〔亮人の誤解を解きほぐす〕という趣旨の選択肢を選びたい。

(c) 誤答は、(r)「自身が拠点を置く場所」が多かった。傍線部にこの意味を当てはめても文意は通りそうだが、「端緒」は〔物事の起こるきっかけ・手がかり・糸口〕の意。語句自体の意味と文脈との両方に注意して解答しよう。

(二)〔採点基準〕

〃a 石帯の玉を盗み、b 得た錢で病の父を医師に診せるため。〃を押さえて — 6点
※ a部2点・b部4点

全体的に、解答の方向性は正しくとらえられていた。ただし、〔石帯の玉を盗む〕という直接の目的と、〔それによりお金を得て、父を医師に診てもら

う) という本来の目的との、一方しか押さえていない答案も多かった。

(三)〔採点基準〕

※ a 自分が飲んだ毒酒は、b 南島について何一つ理解せずに、c それを日本のための架け橋にしようとした (a) 自身の愚かさに対する報いであり、d 娘に罪はないと考えたから。 を押さえて 12点

※ a 部3点・ b 部3点・ c 部3点・ d 部3点

b の要素を押さえていた人は多かった。 c は、押さえている人とそうでない人とに分かれてしまった。 a は、まとめ方が難しかったと思われる、中途半端な押さえ方になっている人が目についた。 d を押さえている人は少なかった。

(四) よくできていた。誤答は(i)が少し目についた。

(五)〔採点基準〕

※ あえて a 石牌ではなく数年で朽ちる木牌を築くことで、 b 建て替えのために往来する船や人を増やし、 c 南海の島々を長年かけて富ませようとしたということ。 を押さえて 12点

※ a 部4点・ b 部4点・ c 部4点

解答の方向性が正しい答案が多かった一方で、空欄のままの答案も少し目についた。よく書けている答案の中にも、b (建て替えのために) という目的の説明や、c (長い時間をかけて(富ませる)) という要素を欠いているために、細かく減点されてしまう答案が多かった。

(六) まずまずの出来。(ウ)・(エ)を選んでいた人の割合は、だいたい同じくらいだった。誤答は(ア)・(イ)・(オ)のそれぞれに同程度に散らばった。

三 古文

(一) ①「たまへ／らむ」のように単語に分けて、「らむ」を「現在推量の助動詞」とする誤答が多かった。

②①と同じく、正しく単語に分けられない答案が目についた。比較的多かったのは、「見／せ／まほしき」のように単語に分けて、「せ」を使役の助動詞とする誤答である。「解説」を読んで復習してほしい。

たのは、「見／せ／まほしき」のように単語に分けて、「せ」を使役の助動詞とする誤答である。「解説」を読んで復習してほしい。

(二) (x) 誤答は(ア)・(イ)が多かった。「いかに」には(どのように)の意もあるが、(ア)・(イ)とも、それに続く解釈が不自然である。ここは(どんなにか(美しいだろう)) (さぞかし(見事だろう))の意で、程度を強調している。

(y) 誤答は(イ)・(ウ)・(エ)に分散した。

(z) 誤答は(ア)・(ウ)が多かった。ここはふすま障子の穴から浮舟の姿を見ようと、その妨げになりそうな几帳などの位置を変えようとしている場面である。

(三)〔採点基準〕

※ a 浮舟が尻になったので、(c)ここには b あなたが c 共寝をする相手もないということ。 を押さえて 8点

※ a 部4点・ b 部1点・ c 部3点

「どういふことを言おうとしているのか」という問いなので、(木枯が吹いた山のおもとはは……)などの直訳のような解答では得点できない。「浮舟が出家したことを踏まえて」という設問文の内容をヒントに考えたい。

(四) (a) 誤答は(ウ)が目立った。「たてまつり」は謙讓語で、動作を受ける人を敬うから、(ウ)では中将自身が「心かけたはまん男(中将)」に「見」られることになってしまう。

(b) (四)の中では、比較的正答率が高かった。

(c) 誤答は(ウ)が目立った。(a)と同じく、「きこえ」は謙讓語だから、「教へ(教ふ)」という動作を受ける人に対する敬意になる。

(d) (四)の中では、もつとも正答率が低かった。

(五) (i)〔採点基準〕

※ a 出家前の普通の姿の時は b 気兼ねなさること c あつただろう d が を押さえて 7点

※ a 部3点・ b 部2点・ c 部1点・ d 部1点

(ii)〔採点基準〕

※ a 部1点・b 部1点・c 部1点・d 部1点・e 部1点
お話し申し上げることができそう
——7点

※ a 部1点・b 部2点・c 部2点・d 部1点・e 部1点

(i)・(ii)とも、空欄のままの答案が散見された。状況がよくわからない場合でも、傍線部の単語を丁寧に現代語に置き換えていけば、何点か部分点をもらえることもある。最後まであきらめずに解答してほしい。

(六) 誤答はウ)が多かった。「解説」に書いたとおり、少将の尼は目の前にいる(出家後の)浮舟の美しさに心を動かされている。また、中将は、出家した浮舟と話をしたいと、少将の尼に提案している。

四 漢文

(一) (1)の「かつて」はよくできていた。しかし、(2)「およそ」は「ほん」とする誤答が多い。苦し紛れに書いただけだとは思いますが、日本語としてもう少しそれらしい読み方を思いつかなかっただろうか。(3)「ここをもって」は、予想通り「これをもって」と読んだ誤答が多い。

(二) (a) (イ)「結実」とした誤答が多いが、「蕃」にも「衍」にも(実を結ぶ)という意味はない。(b)は(オ)「利用している」としたものが多く、これを機会に「重宝(する)」という言葉を自分のものにしてほしい。(c)も予想通りウ)「困ることなく」とした誤答が多いが、「窮」に(困る)の意味はない。

(三) 正解の「歳不登」が一番多かったものの、それ以外にも「雖歳不・死刑者・終天年・少五穀・海産木・不能免・于薩摩・試種之・薬苑中・蕃薯考」など、実にさまざまな誤答があった。

四 (i)〔採点基準〕

※ a 部1点・b 部2点・c 部2点・d 部2点・e 部1点
未だb 数年ならa)ずしてc 処としてd 種e)ざるは無しを押しさえて

——5点

※ a 部各1点

まず、返り点の順序に従って読むことができなければ、スタート地点にも立てない。そこをマスターした上で、「未だ……ず」のような代表的な句形を一通り押さえれば、一応センター試験を受験するスタートラインには立つことができる。そして、上位校を目指すならば「処として」といった慣用表現や「ざるは無し」という二重否定を自分のものにする。さらに多くのライバルに差をつけるためには、「種う」がワ行下二段活用であることに気づいて、「種え」と書き下す。なお、書き下し文では、「すべてひらがなで」といった指示がない限り、助動詞や助詞といった付属語以外の自立語は漢字のまま残すこと。

(ii)〔採点基準〕

※ a 部1点・b 部2点・c 部1点・d 部1点
まだ数年も経たないのに、b どのような場所でもc さつまいもをd 種えb)ないところをなかつたを押しさえて
——5点

※ a 部1点・b 部2点・c 部1点・d 部1点
書き下しは文語による日本語訳なので、(i)ができた人は(ii)もできている。まずは書き下し文の音読を繰り返して、漢文の言い回しに慣れてしまいたい。

(五) (ア)は多くの人が押さえられたが、ウ)の代わりにオ)を選んだ人が多い。「如くは莫し」は確かに(一番だ)という意味だが、その上にある「百穀之外(多)くの穀物以外では」という条件が重要。あくまでも穀物(特に米)が優位なのである。もしさつまいもが「他のどんな穀物よりも優れ」ているのであれば、日本中の主食はさつまいもになっているはず。

(六)〔採点基準〕

※ a 部1点・b 部1点・c 部2点・d 部2点・e 部1点
甘藷の栽培法を記述したb 青木のc 『蕃薯考』を出版し、d 種子とともにe 諸国諸島にd)配布したを押しさえて
——8点

※ a 部2点・b 部1点・c 部2点・d 部2点・e 部1点

まずは、本文に三回出てくる「官」が設問にある「政府(幕府)」の意味であることを見抜く。そして、三番目の「官」が主語だと気づけば、この一文が「時の政府(幕府)が取った施策」を述べていると判断できる。